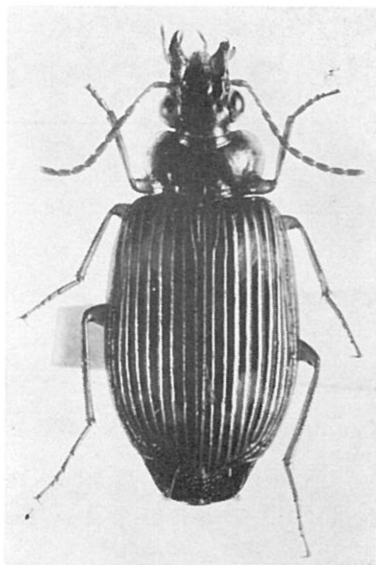


# 稿 KŌCHŪ 虫

## ヒメキノコゴミムシの北限記録

小田 義広

ヒメキノコゴミムシ *Coptoderina osakana* NAKANE, OHKURA et S. UENO は従来、関西方面で数頭が得られているにすぎなかったが、筆者は山梨県の日野春で本種を採集しているので、北限記録として報告しておく。



1 ex., 山梨県日野春, 15. VII. 1977

夜間、クスの樹幹を這っていたもので、同時にキノコゴミムシ *Lioptera erotyloides* BATES も1頭採集している。

(〒253-01 神奈川県高座郡寒川町倉見)

## ナガサキクビナガゴミムシを佐賀県で採集

深町 宗通

ナガサキクビナガゴミムシ *Eucolliuris litura* (SCHMIDT-GOEBEL) は、一見同属の *E. fuscipennis fuscipennis* によく似るが、頭部は複眼の後方で左右に膨隆し、前頭の点刻はより大きく、また、複眼後縁を結ぶ線より後方にも点刻をもつことなどで容易に区別できる。

わが国では、1883年に BATES が長崎より記録したが、その後現在にいたるまで記録を聞かない。

筆者は佐賀県小城郡小城町で、灯火に飛来した本種を得ているので報告しておきたい。

1 ex., 佐賀県小城郡小城町, 28. VI. 1977

(〒845 佐賀県小城郡小城町二瀬川)

## 北海道における

### キバナガミズギワゴミムシの採集記録

井上 寿

キバナガミズギワゴミムシ *Armatocillenus yokohamae* BATES は、従来本州・四国および九州に分布し、特に太平洋に注ぐ大きい河川の河口付近に生息していることが報告されている。筆者は北海道中川郡豊頃町の太平洋に面する十勝川河口の泥土上において本種を採集したが、日本における北限記録と思われるのでここに報告する。

2 exs., 中川郡豊頃町大津, 17. VII. 1977

22 exs., 同上, 31. VII. 1977

7月17日における本種の生息地は、水際に近い泥土上で、雑草がまばらに生えている所であった。7月31日は草がまったく生えていない泥土上で、当日は高温(30°Cを越えた)であったせいか、活動中のものは1頭のみで、他はすべて流木下の水棲動物があけた直径3~4 mmの垂直な穴の中に潜んでいた。高温をさけての行動と思われる。

なお、得られた24頭は、いずれも上翅前部の黄褐色紋がほとんど消失した個体であった。

(〒082 北海道河西郡芽室町新生)

北海道立十勝農業試験場専技室)

## 北海道におけるトビミズギワゴミムシ

### 亜属2種の生態について

井上 寿

トビミズギワゴミムシ亜属 *Cylindrobracteon* はわが国から2種が知られている。北海道においても、コホソトビミズギワゴミムシ *Bembidion(C.) aeneipes* BATES とホソトビミズギワゴミムシ *B.(C.) chloropus* BATES の両種が分布しているが、採集記録はいずれも比較的少ない。道内における両種の生態を報告しておきたい。

前種は内陸の平坦地の河原や海岸の湿った砂地に普通に生活していて、早春より出現するが、9月上旬頃にはこれらの場所から付近のやや乾燥した所に移動する。歩行はきわめて早く、また日中の高温時にはよく飛翔するので捕えることは容易ではないが、低温曇天の日を選ぶと2、3頭から5、6頭が集合している場合があるので